

第 20 回伊那市地方創生総合戦略審議会 会議録

開催日	令和6年8月6日(水)			
開催時間	開 会	午後3時00分	閉 会	午後4時15分
開催場所	市役所 多目的ホール			
委員出席者	伊那市議会	白鳥 敏明		
	伊那地区区長会	守屋 明		
	高遠町地区区長会	小松 浩明		
	長谷地区区長会	中山 幾雄		
	上伊那農業協同組合	田中 悟		
	上伊那森林組合	富山 裕一		
	伊那青年会議所	伊藤 越百		
	長野県経営者協会 上伊那支部	南部 高幸		
	交通事業者	藤澤 宏正		
	連合長野上伊那地域協議会	野中 淳平		
	伊那市社会福祉協議会	小池 浩史		
	伊那市保育園保護者会連合会	山口 涼太		
	伊那市観光協会	向山 知希		
	伊那市女性人材バンク 公募	唐澤 桂子 鈴木 孝之		
欠席者	伊那市金融団	根橋 章一		
	伊那商工会議所	向山 賢悟		
	伊那市教育委員会	北原 秀樹		
	中部PTA連合会	伊藤 剛志郎		
	信州大学	酒井 俊郎		
委員以外の出席者	アドバイザー(上伊那地域振興局企画振興課)		中谷 俊禎	
	新山定住促進協議会		境 久雄	
出席した事務局職員等	企画部長	飯島 智		
	企画部地域創造課長	田中 久		
	企画部地域創造課移住定住促進係長	田中 稔		
	企画部地域創造課移住定住促進係	青樹 万由子		
	企画部地域創造課移住定住促進係	伊藤 汐里		
議 事	(1) 地方創生総合戦略における KPI について			
	(2) デジタル田園都市国家構想交付金活用事業について			
	(3) 地方創生総合戦略及び人口ビジョンの改訂について			
	(4) 伊那市の移住・定住の実績について			

	(5) その他
配布資料	資料 1 第 2 期伊那市地方創生総合戦略 重要業績評価指標(KPI)の令和 5 年度進捗状況 資料 2 デジタル田園都市国家構想交付金 令和 5 年度採択事業一覧 資料 3 伊那市地方創生総合戦略等 改訂スケジュール等 資料 4 第 2 期伊那市地方創生人口ビジョン・総合戦略の概要 資料 5 伊那市の将来の推計人口 資料 6 各施策による移住定住の実績 参考資料 伊那市地方創生総合戦略審議会条例 参考資料 2 伊那市地方創生総合戦略審議会 審議経過

1 開 会

2 会長（富山裕一氏）あいさつ

今の日本は東京への一極集中が進んでいる。伊那市は、この地方総合戦略に基づき、行政や民間の皆さんと、様々な取り組みで地方の活性化や地域作りを図り、定住にも結びつけているということを非常に素晴らしく思うし、誇るメリットであると思う。そういった意味で、この地方総合戦略審議会は、さらに伊那市を積極的にしていくために非常に重要な会議であるため、限られた時間ではあるが、皆様から積極的にご発言をいただき、実りある会にしていきたい。

3 会議事項（進行：富山会長）

(1) 地方創生総合戦略における KPI について

(2) デジタル田園都市国家構想交付金活用事業について

会 長：事務局から説明をお願いします。

事務局：（資料 1・2・4 により説明）

会 長：説明内容について、意見、質問等はあるか。

委 員：資料 1 の達成年度を見ると、令和 6 年度と書かれていたり、中には令和 11 年、令和 12 年という項目もある。資料にある達成状況とは、この達成年度に向けて順調か、概ね順調かという判断なのか。

会 長：二酸化炭素の排出量や太陽光の項目の達成年度が 11 年、12 年となっている。その理由は、こちらは元々のまた別の計画があり、そちらの計画に載っている達成年度であるためである。基本的には令和 6 年度が達成年度である。達成状況は、計画における令和 6 年度の目指す数字と比較をしてどのような状況かというものである。

委 員：逆を言えば、令和 11 年や令和 12 年に達成年度を揃えることはできない

のか。

会 長：少々分かりづらい面があるため、揃えるようにまた調整をして参りたい。

(3) 地方創生総合戦略及び人口ビジョンの改訂について

会 長：事務局から説明をお願いします

事務局：（資料 3・5 により説明）

(4) 伊那市の移住・定住の実績について

会 長：事務局から説明をお願いします

事務局：（資料 6 により説明）

(5) その他

特になし

4 事例紹介

会 長：田舎暮らしモデル地域の活動について、新山定住促進協議会 境久雄様より事例紹介をお願いします。

境 氏：（説明）

会 長：説明内容について、意見、質問等はあるか。

委 員：新山を「ニューヤマ」と読むと思っていたのだが、「ニューヤマ」と「ニイヤマ」の使い分けはあるのか。

境 氏：「ニイヤマ」という読み方が今は正しいと思われる。「丹生」と書いて「ニュー」と読むのだが、これは、赤土を意味するらしい。元々新山は、赤土の多い地域であり、これが、読み方の由来と考えられる。新山には三界山という高い山があり、三界山の山頂より少し高い場所に「丹生山」という看板が立ててある。

会 長：他にあるか。

委 員：同じ田舎暮らしモデル地域である、長谷溝口に住んでいるが、境氏のお話から、地域も発展してきて、小学校や保育園も維持でき、地域としての活動も維持されていて、非常に成果があると感じられる。新山がモデル地区に指定されてから 10 年経つと、その後市からの交付金が無くなると思うが、10 年後、どのようなことをしていくことを考えているのか。

境 氏：まずは、交付期間の延長を依頼したい。それはさておき、現在、新山集落センターで営業許可を取り、お祭りを独立採算でできるように進めていることも、交付期間終了後を見据えた取り組みであり、できる限り何かしら活動する時に自分らで稼いで動けるように、その稼げる範囲でできること

をやっぺいこうと考へて動いている。モデル地域の大きな魅力としては、移住してきた人に対する支援であるため、なんとかその支援でも市に継続していただけたらありがたいと、市に依頼したい。

会 長：それでは、本日アドバイザーとしてご出席いただいている上伊那地域振興局企画振興課 中谷俊禎氏にご助言等いただきたい。

中谷氏：KPIについては、概ね順調の項目が多く見られる。先ほどの境先生の話にもあったように、人口動向を見ても、伊那市はやはり移住・定住が非常に増えている。移住に向いているためには、住まいから働く場所、そういったものが揃っている成果なのではないかと考へる。特に、資料を用いて説明いただいたが、子育て世代である20代、30代、40代の方の移住・定住が多いということから、総合戦略としては一定の成果を得ているのではないかと思う。ただ、今後、人口減少がより加速度的に進むと言われていたため、また新たな取り組みをしていく必要や、今度はその変化を受けた時の対応が必要になるのだろうと思いつつも、これまでの取り組みに非常に敬意を表したい。

5 その他

事務局：お手元にお配りした紙製のファイルだが、こちらは「いなから」という昨年度から始めた事業の一環で作成したものである。「いなから」とは、「伊那から始まる」や、「カラフル」という多様性を表現した言葉である。このファイルは、その第一弾として、障害をお持ちの施設の方から絵を提供いただき、市内の企業様にスポンサーになっていただいて、市と企業様と障害をお持ちの皆様との共同で作った作品である。「いなから」は、多様な皆様が地域で輝けることを目指している事業であり、今後、高校生や地域の皆様と連携しながら、イメージキャラクターを使ったグッズを制作していきたいと考へている。

6 閉 会